わたりさいがいエフエム「FM あおぞら」活動報告

放送総合担当サブチーフ　西垣裕子

はじめに

こんにちは！八洲学園大学を 2011 年 3 月に卒業いたしました、宮城県・亘理町（わたりちょう）在住の西垣裕子（にしがきゆうこ）と申します。やしまを卒業したら、図書館司書や家庭教育アドバイザーの資格をいかした道に進む予定でした。2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、あの地震がなければ…。

現在は、宮城県亘理町の災害エフエム「FM あおぞら」【79.2MHｚ】で、毎日放送しています。どういう巡り合わせなのでしょう。微塵も考えたことのない進路です。わからないことだらけですが、やしまで学んだ“生涯学習”の精神で活動しています。

震災当初はしばらく連絡がつかず、八洲学園大学の先生方、学友たちには本当にご心配をおかけしました。幸運にも、我が家は家族全員無事でした。自宅にも大きな被害がなかったため、震災後 3 週間は、津波で浸水した友人家族 5 人を受け入れて自宅で避難生活をしていました。

そんな時、安否確認の電話を入れていた友人・吉田圭（彼女もやしまの科目等履修生）から電話があったのです。お互いに無事であったことを喜びあった後、彼女は言いました。

「災害エフエムを一緒にやらない？」

「やろう！」

電話が来たのが、3 月 21 日。町長に直談判して承諾いただいたのが、3 月 22 日。総務省から許可が下りたのが、3 月 23 日。そして 3 月 24 日、午後 4 時に開局。ほとんど準備がないまま、勢いだけでスタートさせた災害エフエム。開局以来、ずっとずっと余裕のない毎日ですが、これまでの活動について振りかえってみたいと思います。

1. 災害エフエムを立ち上げることになった経緯

3 月 11 日以降、10 日以上、電気も水も携帯電話もパソコンも使えなくなりました。お店は開いてない、ガソリンも灯油も手に入らない。とにかく自分の住んでいる町の情報がまったく手に入らない。どの位の被害があったのか。どの道が通れるのか。どこで給水できるのか。何もかもわからない。孤立して「確かな情報」がないということは、こんなにも人を不安にさせるものなんだと痛感しました。

逆に言えば「確かな情報」があれば、人は安心できる、っていうことですよね？混乱している町内で、私自身、なによりも信頼できる情報が欲しかった。だから、同じように情報を求めている人はたくさんいるのではないかと思いました。タイミングよく友人から「災害エフエムを一緒にやろう」と声をかけられたとき、やしまで学んだ情報の収集の仕方などが役に立つかもしれないと思いました。

また、2005 年に亘理町で行われた「地域の災害とコミュニティ FM ラジオ」というフォーラムでパネリストのひとりとして参加したこともあり（このフォーラムでは残念ながらコミュニティ放送は立ちあがらなかったのですが)、自分の中で、点と点がつながった！という思いもありました。

『確かな情報を発信する側になる』ことが今の私にできること。そう考えて、私は亘理町災害エフエムの立ち上げメンバーになりました。

2. 災害エフエムへの支援

（1）システム・技術・機材

2005 年のフォーラムでご縁ができた、新潟のコミュニティエフエム「FM ながおか」さんに全面的にご支援いただいています。アンテナ設置から機材一式の貸出、セッティング、電波チェックなどなど、FM ながおかのスタッフのみなさんが亘理町まで駆けつけてくださり、無事に開局を迎えることができました。

電波障害のため、4 月 2 日に周波数を【78.6MHｚ】から【79.2MHｚ】へ変更した時にも、総務省へ強く働きかけてくださいました。現在でも、定期的に駆け

つけてくださり、電波チェックやシステム面で相談している強い味方です。

（2）資金

FM あおぞら宛に、最も早く支援の手を差し伸べてくれたのは、八洲学園大学の仲間と先生でした。支援金や支援物資は、大切に使わせていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。その後、災害エフエムへのいくつかの支援の中で、亘理町では日本財団からの支援を受けることになりました。期間限定の支援で先行きに不安はありますが、パソコンやファックス等の備品を購入することができました。

（3）人材

立ち上げスタッフは 3 名ですが、現在、主になっているのは 2 名。全部で 12～15 名のボランティアスタッフで運営しています。ほぼ、亘理町在住の町民で、被災した（全壊・一部損壊）人もいます。

（4）番組提供・連携協力

AM ラジオ局、コミュニティ FM 等ラジオ関係のスタッフや、大学の研究機関の方々などが FM あおぞらのスタジオへと訪れ、現状を確認した上で、こちらの希望に沿った形で、FM あおぞら向けに番組提供や連携協力を行ってくださっています。一部だけですが、ご紹介します。

＜ラジオ関係＞
・東京：文化放送「おはなし玉手箱」
・京都：FM いかる「音楽の小箱～オールディーズ」
・神戸：FM みっきぃ「おはなしの時間だよ」

＜研究機関＞
・仙台：せんだいメディアテーク：番組記録の保存
・神戸：NPO 法人多言語センターFACIL（FM わぃわぃ）：多言語放送の音声データ、資料（東日本大震災用に新たに作成したものを提供していただく形）
・東京：東京大学大学院情報学環・学際情報学府（林香里研究室）：多言語放送の音声データ、多言語資料（FM あおぞらから依頼した原稿で多言語による音声を作成、提供していただく形）
・京都：京都大学防災研究所　社会防災研究部門　防災社会システム研究分野（多々納研究室）：防災アンケート集計

3. 放送体制と情報発信

（1）放送体制について

3 月 24 日開局当初は、午前 7 時～午後 7 時、1 日 12 回の放送で、情報提供は 1 回 30 分でした。情報提供以外の時間と夜間は、電波を発信し続けるため、音楽を流しています。

4 月 18 日から放送体制を変更、午前 8 時～午後 7 時、1 日 6 回の放送で、情報提供は 1 回 60 分。放送は 2 時間おきになりましたが、情報量としては同じです。現在（2011 年 9 月 5 日）もこの体制で放送しています。

（2）情報発信について

「震災から日にちが経過して情報が変化したか？」とよく聞かれますが、基本的には変わっていません。少しずつ内容が加わり、定番が出来て、現在のスタイルになりました。最近は復興関連の情報（会議・勉強会など）や、コミュニティに関する情報が新たに加わりました。

具体的な内容は以下の通りです。スタートした日付がわかるものについては、記載しました。おおまかな記載ですので、抜けている情報があるかもしれません。ご了承ください。

＜3/24～＞
・亘理町災害対策本部　震災情報
・生活関連情報（ライフライン、物資配布、相談会、お店、民間・ＮＰＯボランティア団体からの情報）
・防災無線の復唱
・気象情報
・交通情報
・スタッフ取材による町内・近隣で行われる催しについてのレポート
（主催者・有名人・参加者の声等）
・亘理町民歌「呼んでる朝が朝明けが」（毎日：午前 8 時台、3/31）

＜4 月～＞
・わたりにまつわる民話・地名・方言の紹介（毎日：午前 10 時台、4/4）
・亡くなられた方々のお名前読み上げ（毎月 11 日、4/11～）
・多言語放送（毎日：午後 1：30～、4/22）

・あおぞら体操：仙台大学との連携、オリジナル（毎日：午後 2 時台、4/29）
・おはなし CD（毎日：午後 2 時台、4/30）

＜5 月～＞
・亘理町長・定例報告（週 1 回：午前 8 時台、5/24）
・教育委員会・教育長へのインタビュー（月 1 回、5/30）
・被災者へのインタビュー“3.11 わたしの場合”（週 1 回：午後 4 時 or6 時台）

＜6 月～＞
・放射線測定値（毎日：1 日３回、午前 8 時、正午、午後 6 時台、6/1）
・仙台大学の体育学部健康福祉学科の講師による健康講話（月 1 回、6/20）
・わたりゆったり笑顔体操、青森市保健所チームとの連携、オリジナル：（毎日：午後 4 時台、6/28）

＜7 月～＞
・あおぞらレシピ（週 2 回：午後 4 時台、7/27）

＜8 月～＞
・新生わたり・コミュニティレポート（週 1 回：午前 10 時台、8/2）

（3）放送内容・原稿

放送内容についての支援はありません。内容・原稿については、すべて手探りです。放送内容は、だいたいチーフとサブチーフで決めています。

原稿は、あるものとないものがあります。チラシや資料を見て、適宜必要な言葉を拾い上げながら伝えられそうな資料は、特に原稿を作りません。分かりにくい資料については取材する等して補足事項を加えた原稿を新たに作ります。独自取材によるニュースやレポートなどの原稿も作成しています。原稿作成も、チーフとサブチーフが中心になって行っています。

4. 宮城県亘理町の現状（2011 年 9 月 5 日現在）

亘理町は宮城県南部に位置し、仙台市から南に 26.1ｋｍ、東は太平洋、西は角田市、南は山元町、北は阿武隈川を境に岩沼市と接しています。面積は、73.2ｋ㎡、およそ 35,000 人が暮らしています。

避難所がすべて閉鎖し、仮設住宅や宮城県が借り上げたアパート、被災した自宅に戻るなどして、新たな生活が始まった段階です。被災した町民は、よう

やくプライベート空間や自由な時間が手に入るようになりましたが、その分、孤立しやすい状況であると考えます。

また、表面的には、震災前と同様に流通し、店舗には商品が並び、住まいもある程度は保障されているので復興へと歩んでいるように見えます。でも、精神的には非常に失ったものが大きく（家族や友人・知人、コミュニティ、仕事の喪失など)、精神的なダメージから立ち上がるには、まだまだ時間が必要な状況であるといえるでしょう。

5. ラジオの配布について

ＦＭあおぞらでは、被災された方々に、ひとつひとつ手渡しでラジオを配布しています。ラジオは全国からの支援物資として寄贈された品です。2011 年 7 月 31 日現在、およそ 3000 個、配布したところです。

ラジオの配布は、4 月 11 日から本格的にはじめました。きっかけは、震災後 4 月 7 日に起きた余震です。このときは、津波警報が発令され、断水・停電とまたライフラインが閉ざされてしまいました。

現在、亘理町には防潮堤がない状態です。自宅の片づけなどで被災地に戻られて作業される方がもしも情報をとることができなくなった場合、非常に危険です。命にかかわる問題です。ですので、ラジオで情報をとってください、命を守ってくださいと来庁した町民に声をかけ、本当に必要としている方、困っている方にラジオを手渡すことにしました。放送では、特にラジオ配布についての宣伝は行っていないので、口コミで広がったようです。

9 月に入ってからも、毎日のようにラジオを求める方がスタジオへと訪れます。特に余震があると、ラジオを求める方が増えます。

6. 今後のＦＭあおぞらの役割

（1）情報で命を守るという役割（防災面）

亘理町の防災無線塔は 85 基のうち、19 基が津波による被害を受けて使用不能となっています。今現在、防災無線が入らない地域があるということ、そして聞こえにくい地域もあるため、緊急の場合を考えて、町の防災無線の機能を補いつつさらに繰り返し伝えることで、情報で命を守るという役割があると考えます。

（2）生活に密着した役立つ情報を伝える役割（生活面の支援）

以前とは異なった生活環境の中で、不安を抱えて暮らしている町民が多く存在しています。毎日の生活ですぐに役立ったり、困っていることを相談できたり、新しいことにチャレンジしたくなるような、生活に密着した有益な情報を伝える役割があると考えます。

（3）情報で人と人をつなぐ役割（コミュニティの支援）

津波によって町の半分が被害を受け、長く形成されていた地域の自治組織はバラバラになってしまいました。町からのお知らせの情報を１つ流すにしても、以前のようにスムーズに伝達されない地域が多くあります。ラジオで情報を流すことにより、行政と町民とのパイプ役（上から下へ、下から上へ）を担う役割を果たすことができると考えます。

また、情報を通して、新たな仲間づくり（横から横へ）の支援もできると考えます。

上から下へ、下から上へ、横から横へ。5ヶ月間の活動を通して、ラジオという媒体は、情報で人と人をつなぐ交差点のような存在であると実感しています。

（4）情報で心を癒す役割（精神面の支援）

震災 6 ヶ月を迎えようとしていますが、町としての復興計画がまだハッキリと定まっていない時期のため、今後の生活に対して不安を感じている町民は多いと考えます。そんな時期だからこそ、音楽や心あたたまるエピソードなど、少しでも心が安らぐ時間の提供をする役割が必要なのではないでしょうか。

おわりに

今回の震災では、改めて災害のこわさを知るきっかけになった方も多いと思います。災害は自分のところまでは、まぁ来ないだろうとか、大丈夫だろうという甘い考えは、どうか捨ててください。災害は絶対に来ないという地域は、どこにもないのです！！！

防災グッズなど「物」の準備も大切ですが、「確かな情報」をとるという習慣を、普段から心がけていただきたいと強く強く思います。災害の時に、情報を得ることで命を守ることができるんだ、ということを、どうぞ忘れないでください。「いざという時、ラジオは味方！」です。

名　称	わたりさいがいエフエム
愛　称	FM あおぞら
呼出符号	JOYZ2Y-FM
所在地	宮城県亘理郡亘理町字下小路７－４
周波数	79.2MHz
出　力	30W
開　局	平成 23 年 3 月 24 日

【参考】

・ＦＭあおぞらの公式ウェブサイト（亘理町公式サイト内）
http://www.town.watari.miyagi.jp/index.cfm/22,0,126,html

・東京大学大学院情報学環・学際情報学府 林香里研究室 報告：畑仲哲雄、林香里）2011 年 6 月 23 日 【取材報告】被災地の小さなメディアを訪問（上）
http://www.hayashik.iii.u-tokyo.ac.jp/jp_news/community_media_disaster_report1/